飯田女子短期大学紀要 第34集，13-26，2017

保育者養成校卒業後１年目の保育者に対する幼稚園・保育所・施設の評価（2）

林　晋子・山本由紀子・菱田博之・相澤里美・宮下幸子

Performance Evaluation for Licensed Kindergarten Nurses（One Year Working Experience）by Pre-schools , Kindergarten or Social Institutions（2）

Kuniko Hayashi，Yukiko Yamamoto，Hiroyuki Hishida，Satomi Aizawa and Sachiko Miyashita

要旨：保育者養成校としての教育の課題を明確化する目的から，2015年度Ａ短期大学幼児教育学科卒業生の就職先の代表者を対象に質問紙を配布し，教育内容に対する現場の評価について調査した．そして，その評価が2014年度卒業生と2015年度卒業生の間に差があるかどうかを検討した．その結果，教育目標は概ね達成されている一方で，「幼児期の特性に合わせた教育内容・方法について理解」に課題があると考えられた．自由記述においては，2014年度と同様に課題として「文章表現」「コミュニケーション能力」が挙げられた．この結果を受け，幼児期の発達の理論と子どもを観察する力を相互に関係することとして捉えられるように授業内容を充実させることが課題であると示唆された．さらには，2016年度からの取り組みを継続することが必要であると考えられた．

Key words：保育者養成（education of kindergarten nurses），教育目標（educational goals），評価（performance evaluation）

研究の意義・目的

保育者養成校（以下，養成校）では，学生が将来質の高い保育者として従事できるよう，講義・演習・実習を通した幅広い学びを提供している．筆者らはその教育内容の評価を検討する目的から，実際にＡ短期大学幼児教育学科（以下，当該学科）の卒業生が保育者として従事した現場に協力を求め，養成校の教育の課題や地域のニーズを把握した[1)]．結果として，卒業生の勤務態度や健康管理，子どもや保護者に対する優しい表情，職員と連携して保育をする姿勢が評価された一方で，子どもの表現を引き出す支援や子どもや保護者とのコミュニケーション能力，積極的・主体的な姿勢が課題として挙げられた．また，養成校に対する地域のニーズは，文章表現や基礎学力，社会人としての人間性，態度やマナーであることが示唆された．この結果を受けて当該学科では，2016年度に新たな取り組みを行った．具体的には 1)コミュニケーション能力や積極的な態度を養うためにアクティブ・ラーニングを導入し，近隣にある総合公園で子どもたちを対象とした催しを企画・実行したこと，2)学内にある子育て支援施設を授業で活用し，これまで以上に保護者と学生が関わる機会を増やしたこと，3)特に保育・教育に関する基礎科目において，文

2017年3月30日受付：2017年5月24日受理

章を記述する機会を増やしたこと，4)子どもの視座に立って物事を捉えられるように，模擬保育室の設置を計画したこと（2017年度に完成予定）が挙げられる．

Ａ短期大学においては，2014年度より学生委員会を中心として卒業生に対する現場の評価を問う調査（以下，卒業後評価アンケート）を実施してきた．この取り組みは学習成果の確認や授業内容・授業計画の見直しなどを目的として2018年度までの５年間に調査を行うものである．Ａ短期大学の卒業後評価アンケートは５年を一区切りとしてまとめられており，Ａ短期大学に属する全学科・専攻の教育に対する質を高める取り組みとなっている．しかしながら，養成校としての教育の課題を明確化するためには，保育の観点に基づいた更に詳細な調査が必要であると思われた．そのため，筆者らは2014年度卒業生を対象とし，卒業後評価アンケートの調査内容に新たな項目を加え，調査を実施した．そして，当該学科の教育の課題を明確化したうえで，2016年度から新たな取り組みを実施した．その新たな取り組みの成果は2016年度卒業生の評価を待たねばならないが，今後も調査を継続し，繰り返し研究を行うことで課題が明らかになると考えられる．

ショーンは「行為の中の省察」という概念から「反省的実践家」という教師像を提唱している[2]．それは，教育という関係性の中で生じる複雑な事象について考え，意味を問い直し，自問自答していく行為である．その自らを問い直す目線が教員の専門性や力量の向上につながっていくと考えられている．われわれ教員は日々の授業や学生との関わりの中にその知を見出し，問い直しているが，一方で自らの実践を問い直す手がかりも必要である．教員の相互評価や事例検討は手がかりの一つとなるが，養成校としての教育の課題を検討していく場合，外部の客観的な評価を受けることも必要だと考えられる．また，教育という複雑で可変的な実践の特性上，たった１度の評価ではなく，繰り返し検討していくことによって明らかになる課題があるのではないだろうか．

養成校に求められている教育として妥当性が高いと考えられるものに全国保育者養成協議会専門委員会(2014)の報告が挙げられる[3]．その報告では，保育者の専門性について「保育者基礎力」「保育に向かう態度」「保育者の専門的知識・技能」の３つの観点から検討されている．それらの観点における養成校で獲得する事柄として，「保育者基礎力」では，時間や期限を守る，身だしなみに清潔感があるよう心がける，丁寧な字を書く，言葉遣いやマナーの配慮など，『社会的マナー』『仕事に取り組む姿勢』『社会的態度』が挙げられており，「保育に向かう態度」については他者に対する愛情・思いやり，使命感を持って子どもに接する『基本的態度』が挙げられている．また，「保育者の専門的知識・技能」は『発達理解』と『基礎的知識』とされている．この報告は筆者らの研究[1] と重なる部分が多く，地域のニーズから全国的な傾向を類推することもできるかもしれない．上田・松本[4]は現場が養成校に求める教育について，「対人関係やコミュニケーション能力の向上」「社会人・職業人としての意識や心構えの養成」「豊かな人間性の育成」の割合が高いことを報告している．この結果においても筆者らの研究と類似するため，林らの研究手法[1] は妥当であると考えられる．

一方で，Ａ短期大学の使命は地域における人材育成である．地域のニーズを把握しながら教育内容を改善していくことによって，当該学科の教育の質を向上させることができると考えられる．

したがって本研究では，林ら[1] と同様の質問紙を用いて，2015年度卒業生が就職した保育所や幼稚園，施設の代表者に質問紙調査を実施し，当該学科の教育について現場がどの

ように評価をしているのか明らかにすることを目的とする．重ねて，2014年度卒業生の評価と2015年度卒業生の評価にどのような点で差があるのかを検討し，次年度に向けた養成校としての課題を明らかにする．

調査方法

１．対象者・回答者

質問紙調査の対象となるのは2015年度の当該学科卒業生のうち，保育所，幼稚園，障害児・者支援施設で保育者として働く33名である．正規・非正規は問わず，2016年４月より保育者として働き始めた卒業生を対象とした．質問紙への回答は，対象者が勤務する施設の代表者に依頼した．ただし，実際の回答では代表者だけではなく，主任やその他管理職からの回答もあった．送付した保育所は23箇所，幼稚園は１箇所，障害児・者支援施設は９箇所であった．

２．調査期間

2016年11月28日～ 2017年２月９日

３．調査内容

『卒業生評価アンケート』と題した質問紙を対象者の勤務先へ送付し，調査協力に同意を得た場合に質問紙の返送を求めた．調査用紙は，2014年度よりＡ短期大学で行われていた卒業後評価アンケートにおける９項目に加えて，林ら[1]で再構成した内容を踏襲した．卒業後評価アンケートにおける９項目は，保育に従事するものとしての基本的事項を問う項目である．林ら[1]はそれら９項目に，教育目標の各領域に対応した11項目と自由記述３項目（保育者として評価できる点，保育者としての課題点，養成校に期待する点）を加え，当該学科の教育内容について総合的に評価できるように再構成した．教育目標の各領域に対応した11項目については，授業担当者数名で話し合い，その科目群において身に付けられる能力についての質問を設定した．また，自由記述以外の項目については，５件法（１．まったくできていない，２．あまりできていない，３．どちらともいえない，４．だいたいできている，５．かなりできている）から，該当する数字を選択するよう求めた．なお，倫理的配慮のため，研究の内容・目的・期間を記載した依頼書，研究参加の自由，個人情報の保護，データの取り扱いに関する事項などを記載した同意書を同封し，インフォームドコンセントに留意したうえで調査を実施した．なお，同意書は回答者と対象者（卒業生）用に２枚用意し，両方の同意を得た回答のみ有効回答として分析した．質問紙および同意書については資料として付す（資料１，資料２）．

４．データ解析

卒業生評価アンケートのうち20項目に関しては，５件法によって得られた１から５までの値をそのまま数量化した．その後，当該学科の教育に対する評価を明らかにする目的から，各項目の値について１サンプルのｔ検定を行い，検定値と比べて有意な差があるかどうかを検討した．検定値は３に設定した．さらには，2014年度卒業生の調査と2015年度卒業生の調査に差があるかどうか検討するため，対応のないｔ検定を行った．

自由記述３項目の分析については，KH Coder[5]によるテキストマイニングを行った．まず，回答の内容をテキストデータにし，出現パターンの似通った語，すなわち共起の程度が強い語を線で結んだネットワーク図を描いた．ネットワーク図は，共起関係が強い程，語と語を結ぶ線が点線→実線→太い実線となって描かれる．また，出現数が多い語ほど，大きい円が描かれる．その特徴や様相から自由記述の内容を分析した．重ねて，サブグラフ検出（媒介）といわれる手法で比較的強くお互い結びついている部分を自動的に検出してグループ分けを行い，その結果を色分

けによってグループごとに区別した．その後，テキストデータの内容と照らし合わせながら，各グループを特徴づけるグループ名を命名し，それぞれについて考察を行った．

結　　果

アンケートは発送数33部のうち，回答数は22部，回収率は約66.7％であった．各項目の平均値（M），標準偏差（SD）は表１に示す．

１．ｔ検定による平均値の比較

１サンプルのｔ検定（検定値３）の結果，20項目のうち15項目に有意差があった（表１）．特に「１．魅力的な社会人」（$t(21)=4.86$，$p<.001$），「４．子どもの最善の利益」（$t(21)=4.95$，$p<.001$），「５．保育の振り返り」（$t(21)=5.84$，$p<.001$），「10．職務内容と責任」（$t(21)=5.78$，$p<.001$），「19．園または施設の方針や実情の理解や柔軟性」（$t(21)=6.86$，$p<.001$）において0.1％水準で有意に高い値となった．また，「８．家庭との連携」「９．専門機関との連携」以外の18項目の平均値が３以上であったことから，ほとんどの卒業生が上記の項目について評価されていることが明らかになった．

一方で，「８．家庭との連携」「11．社会福祉制度の理解と活用」「12．こころとからだの発達の理解と活用」「15．幼児期の特性をふまえた教育内容・方法についての理解」「17．表現を引き出す支援」については有意差がなかった．2014年度卒業生の調査では，「15．幼児期の特性をふまえた教育内容・方法についての理解」の平均値が3.50と有意に高く評価されていたが（$t(25)=3.93$，$p<.01$）[1]，2015年度卒業生の調査では平均値が3.24と2015年度卒業生と比べて低い値となっており，有意差がなかった．また，「９．専門機関との連携」については，2014年度卒業生の調査では有意差がなかったが[1]，2015年度卒業生の調査では有意に低い値であった（$t(21)=-2.08$，$p<.05$）．

表１　2015年度卒業生の評価における平均値（M），標準偏差（SD），１サンプルのｔ検定（検定値３）の結果

質問項目	*M*	*SD*	*t* 値
1. 魅力的な社会人	3.73	0.69	4.86***
2. コミュニケーション能力	3.68	0.76	4.10**
3. 保育の本質	3.50	0.72	3.17**
4. 子どもの最善の利益	3.68	0.63	4.95***
5. 保育の振り返り	3.71	0.55	5.84***
6. 発達や育ちの環境を理解	3.41	0.65	2.88**
7. 短大で学んだ知識や保育技術の活用	3.45	0.58	3.58**
8. 家庭との連携	2.91	0.73	-0.57
9. 専門機関との連携	2.68	0.70	-2.08*
10. 職務内容と責任	3.82	0.65	5.78***
11. 社会福祉制度の理解と活用	3.05	0.56	0.37
12. こころとからだの発達の理解と活用	3.05	0.71	0.30
13. 現代の子育て環境の理解	3.32	0.55	2.63*
14. ねらいや実態を踏まえた指導計画の立案	3.45	0.58	3.58**
15. 幼児期の特性に合わせた教育内容・方法についての理解	3.24	0.61	1.75
16. 子どもや親の気持ち・立場の理解	3.50	0.66	3.50**
17. 表現を引き出す支援	3.23	0.90	1.16
18. 行事やイベント時の音楽表現活動	3.68	0.82	3.81**
19. 園や施設の方針や実情の理解と柔軟性	3.95	0.64	6.86***
20. 実習経験が活かされているか	3.50	0.72	3.17**

*$p<.05$，**$p<.01$，***$p<.001$

さらに，2014年度卒業生と2015年度卒業生の平均の差をｔ検定を用いて比較した結果，いずれの項目に関しても有意差はなかった（表２）．

２．テキストマイニングの結果

自由記述の項目について，抽出された各グループとその命名について説明する．

１）保育者として評価できる点

【求められる保育者像】【保育者の資質】【子どもや利用者[6]との関わり】【職務への姿勢】【新任としての態度】【勤務態度】という点が浮かび上がった（図１）．「真面目」「愛情」「見る」「気持ち」「寄り添う」「日々」「心がける」「上司」というグループを，対峙している子どもや上司などへの接し方を評価されていると考え【求められる保育者像】と命名した．次に「指示」「理解」「接す」「元気」「明るい」「評価」のグループを，対象者（卒業生）が本来持っている「明るい」「元気」などの資質を評価されたと考え【保育者の資質】と命名した．「丁寧」「関わる」「常に」「大変」「姿」のグループは「関わる」という言葉を中心に利用者や子どもとの関わりを評価されていると考え【子どもや利用者との関わり】と命名した．「持つ」「強い」「行動」「返事」「行動」「取る」のグループは職場での日頃の態度が評価されていると考え【職務への姿勢】と命名した．「学ぶ」「先輩」「穏やか」「アドバイス」「生かす」「現場」「支援」「福祉」「人」のグループは先輩からのアドバイスを生かして支援をする新任らしい態度が評価されていると考え【新任としての態度】と命名した．「積極」「職員」「利用」「良い」「前向き」「姿勢」のグループは前向きで積極的な態度が評価されていると考え【勤務態度】と命名した．

表２　2014年度卒業生と2015年度卒業生の評価における平均値（M），標準偏差（SD），ｔ検定の結果

質問項目	2014年度（n=26）		2015年度（n=22）		
	M	SD	M	SD	t 値
1. 魅力的な社会人	3.58	0.76	3.73	0.69	-0.71 n.s.
2. コミュニケーション能力	3.46	0.99	3.68	0.76	-0.86 n.s.
3. 保育の本質	3.58	0.76	3.50	0.72	0.35 n.s.
4. 子どもの最善の利益	3.54	0.71	3.68	0.63	-0.73 n.s.
5. 保育の振り返り	3.62	0.70	3.71	0.55	-0.54 n.s.
6. 発達や育ちの環境を理解	3.42	0.86	3.41	0.65	0.64 n.s.
7. 短大で学んだ知識や保育技術の活用	3.50	0.95	3.45	0.58	0.20 n.s.
8. 家庭との連携	3.16	0.90	2.91	0.73	1.04 n.s.
9. 専門機関との連携	2.96	1.11	2.68	0.70	0.99 n.s.
10. 職務内容と責任	3.62	0.94	3.82	0.65	-0.87 n.s.
11. 社会福祉制度の理解と活用	3.24	0.72	3.05	0.56	1.03 n.s.
12. こころとからだの発達の理解と活用	3.31	0.84	3.05	0.71	1.17 n.s.
13. 現代の子育て環境の理解	3.38	0.70	3.32	0.55	0.36 n.s.
14. ねらいや実態を踏まえた指導計画の立案	3.38	0.70	3.45	0.58	-0.38 n.s.
15. 幼児期の特性に合わせた教育内容･方法についての理解	3.50	0.65	3.24	0.61	1.40 n.s.
16. 子どもや親の気持ち・立場の理解	3.62	0.85	3.50	0.66	0.52 n.s.
17. 表現を引き出す支援	3.27	0.78	3.23	0.90	0.17 n.s.
18. 行事やイベント時の音楽表現活動	3.54	0.76	3.68	0.82	-0.62 n.s.
19. 園や施設の方針や実情の理解と柔軟性	3.62	0.80	3.95	0.64	-1.61 n.s.
20. 実習経験が活かされているか	3.62	0.90	3.50	0.72	0.49 n.s.

n.s. : not significant

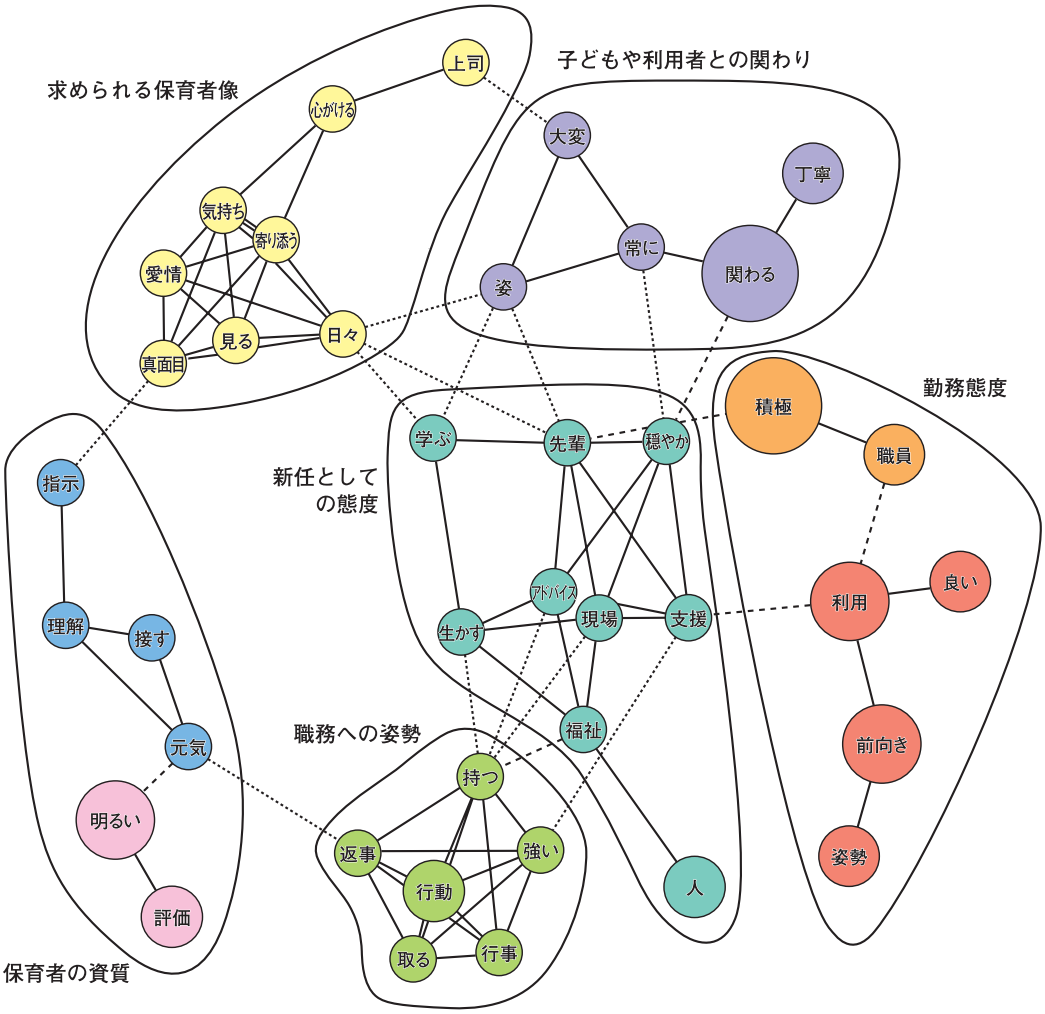

図１　「保育者として評価できる点」についての共起ネットワーク（サブグラフ）

２）保育者としての課題点

【一般常識】【今後への期待】【コミュニケーション能力】【客観的理解力】【柔軟な対応】という点が浮かび上がった（図２）．まず，「不足」「社会」「生活」「学生」「学ぶ」「今」「経験」のグループは社会人としての経験不足から一般常識が身についていないと考え，【一般常識】と命名した．次に，「知識」「気づく」「良い」「現場」「期待」「今後」「関係」「多い」「課題」を，現場での気づきと知識を結び付けて，今後へつなげてほしいという期待と捉え，【今後への期待】と命名した．「保護」「人」「コミュニケーション」「職場」「自分」は職場において関わるすべての人との様々なコミュニケーションを問われていると捉え，【コミュニケーション能力】と命名した．「思う」「保育」「意識」「評価」「記録」「姿」「子ども」「苦手」「理解」は文章にすることを苦手としており，保育場面や子どもの姿を客観的に捉えることができていないと考え，【客観的理解力】と命名した．「性格」「もう少し」「出来る」「柔軟」「考える」「対応」「施設」「養護」「児童」「支援」「姿勢」「利

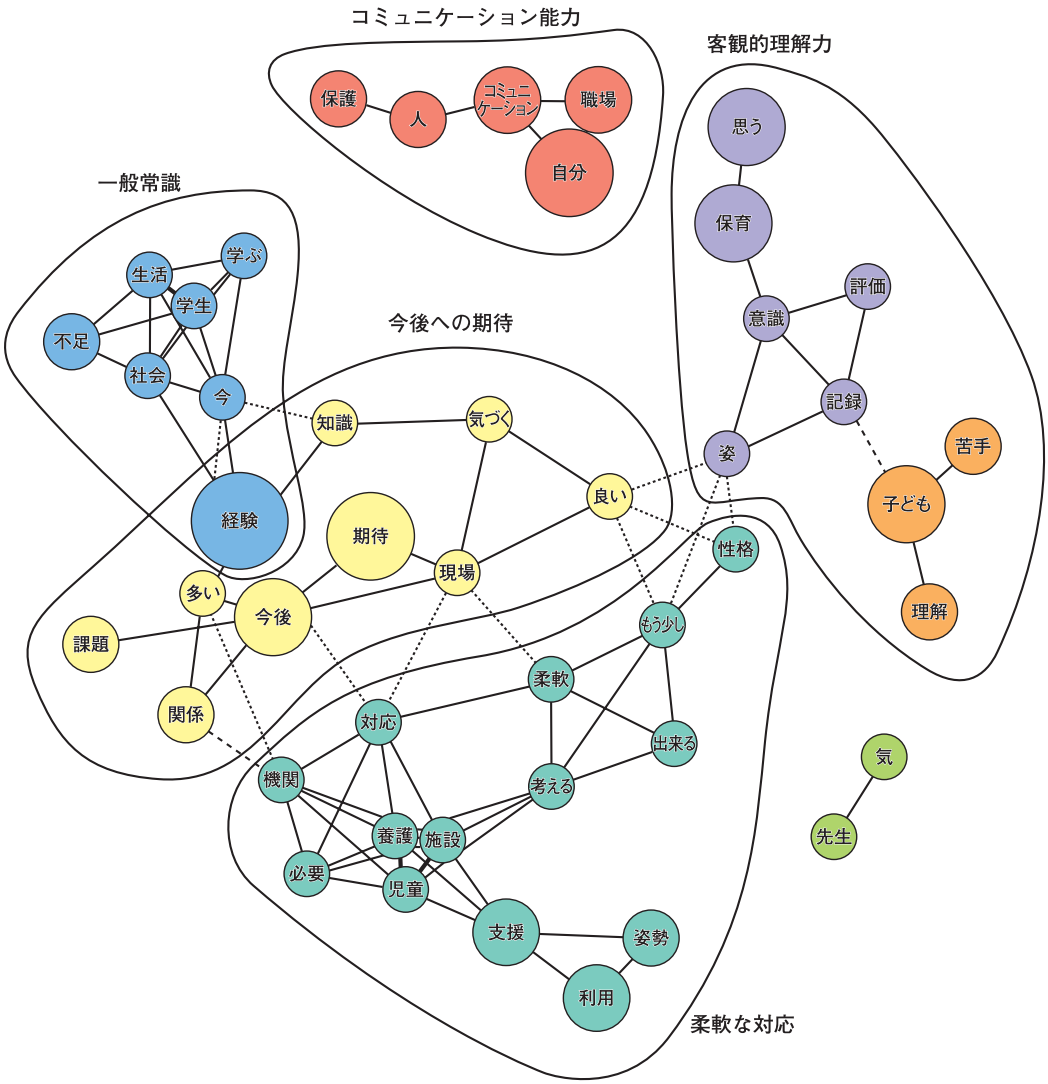

図２　「保育者としての課題点」についての共起ネットワーク（サブグラフ）

用」「機関」「必要」は特に児童養護施設において支援できる限界を知り，外部機関に繋げる柔軟な対応が望まれていると解釈し【柔軟な対応】と命名した．

３）養成校に期待する点

【期待される人材育成】【文章表現の向上】【地域貢献】【学生への周知】という点が浮かび上がった（図３）．まず，「子ども」「学ぶ」「思う」「方法」「知識」「魅力」「自分」「人間」「場所」「大切」「福祉」「高い」を知識だけでなく，人間的な魅力や学び続ける姿勢を身につけて卒業してほしいという期待があると考え，【期待される人材育成】と命名した．また，「向上」「関わる」「新卒」「期待」「文章」「方々」「貴校」「表現」を文章表現が向上するような指導への期待と読み取り，【文章表現の向上】と命名した．「人材」「地域」「姿」「卒業生」「良い」は地域唯一の高等教育機関として地域に根付く人材の養成を期待していることと解釈し，【地域貢献】と命名した．「責任」「伝える」

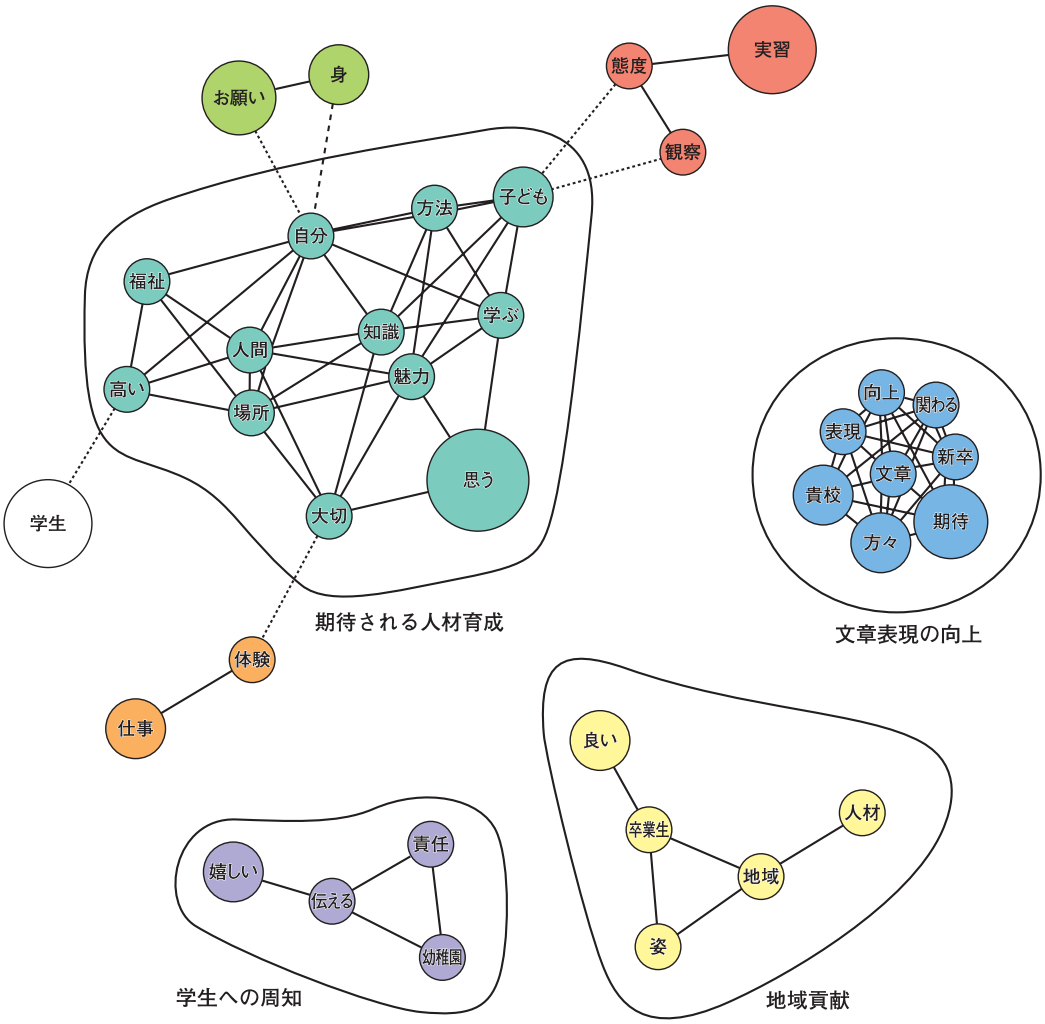

図３　「養成校に期待する点」についての共起ネットワーク（サブグラフ）

「幼稚園」「嬉しい」は偏りがちである学生の就職希望を緩和するために様々な職業の魅力を伝えてほしいという希望と捉え，【学生への周知】と命名した．

考　　察

１．教育目標の達成度と課題

１サンプルのｔ検定の結果，当該学科の教育目標は概ね達成されていると考えられる．以下では，今後の課題を検討するため，有意差のなかった５項目に加え，「９．専門機関との連携」について考察する．

１）家庭との連携

保育所保育指針解説書[7]において「保育は保護者と共に子どもを育てる営み」と書かれている通り，保育者と保護者が連携して保育にあたることが求められている．連携していくためには，保育者が日々の保育の意図や取り組みを保護者に伝えると同時に，保護者の声に耳を傾け，意向を受け止めながら保育をしていく必要がある．自由記述において卒業生の「経験不足（社会性，コミュニケーショ

ン能力）」が指摘されており，このことが家庭との連携に影響していると考えられる．つまり，家庭との連携に有意差がなかった要因は，保育者としての経験不足と日常生活において様々な年齢や立場の人と関わる経験が不足しているためと推察される．

2）社会福祉制度の知識

2014年度卒業生の調査では「新任には困難な課題」と考えられていたが，2015年度卒業生の調査では，新任の時から「子どもの生い立ちから養育を考え，支援していくこと」を期待する記述があった．また，知識を活用した行動ができるかという以前に「児童養護施設の役割と機能を十分に理解」していくことが課題として挙げられていた．さらに，「知識としては知っていても活かす方法に気付かない」という指摘があった．持っている知識を活かすことができず，結果的に知識が不足していると評価されていることが考えられる．

3）こころとからだの発達の理解と活用

2014年度卒業生の調査では，自由記述の回答から「子どもの発達に応じた活動や必要な援助を計画できていないことが多い．発達を理解していても計画や実践と結びついていない」ことを課題として考察した[1)]．2015年度卒業生の調査では，子どもの発達についての記述は得られなかったが，この項目が評価されなかったことについては，次の「幼児期の特性に合わせた教育内容・方法についての理解」との関連性が考えられる．

4）幼児期の特性に合わせた教育内容・方法についての理解

2014年度卒業生の調査では，幼児期の特性に合わせた教育内容・方法の理解ができていないとの指摘はなかった[1)]．しかし，2014年度卒業生と2015年度卒業生の平均値を比較した結果，有意差はなかったものの，2015年度卒業生の方が低い値となっていた．幼児期の発達の理論を理解していなければ，特性を踏まえることは難しい．また，理論が分かっていたとしても個々の子どもについて理解するためには日常の姿を観察する必要がある．

観察する観点としては自由遊びの様子や子どもが自ら好んで読んでいる絵本などがあるが，このような観察ができていなければ保育者が中心となって活動を決めることになってしまう．子どもの興味・関心に合わせた活動を展開することによって子どもを惹きつけることができるため，保育者が幼児期の発達の理論を理解していることと，個々の子どもの姿を観察する力があることは相互関係にあると考えられる．しかし，卒業生はどちらか一方または両方が保育と結びついていないと推察される．

5）表現を引き出す支援

2014年度卒業生の調査では，保育者の「援助技術が充分ではない」と考察したが[1)]，上述の通り，2015年度卒業生の調査で「こころとからだの発達の理解と活用」と「幼児期の特性に合わせた教育内容・方法についての理解」は相互関係にあると考えられた．よって，援助技術そのものに依存するのではなく，援助技術以外の課題を考慮する必要がある．援助するためには，まず個々の子どもがどの発達段階にあるかを保育者が把握する必要があるが，幼児期の発達の理論を充分に理解していないことや子どもを観察する力に課題があるために，子どもから表現を引き出す支援が評価されなかったのではないかと考えられる．

6）専門機関との連携

専門機関との連携については全体的に低い評価を得た．新任の立場で専門機関との連携を行うことは稀であり評価される機会も少ないためと推察される．

2．卒業生に対する保育現場の評価

1）保育者として評価できる点

【求められる保育者像】

上司などからの指摘を前向きに受け止め，本人なりに改善しようと努力することや，子

ども・利用者との関わりの様子が評価されていた．保育所保育指針解説書[7]において「自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にするとともに，保育所全体の保育の内容に関する認識を深めること」とされているように，子どもや利用者の気持ちに寄り添い，愛情をもった援助を行うことだけではなく，上司や先輩の意見も受け止めながら自身の保育を振り返ることを通して，保育の質を高めていこうと努力することが求められていると考えられる．

【保育者の資質】

上司などからの指示を理解し，子どもや利用者と明るく元気に接することができる資質をもった保育者が評価されている．【求められる保育者像】に表されていることは知識・技術として学べることであるが,「明るい」「元気」など保育者として相応しい性質を本来的にもっていると評価されていると推察できる．

【子どもや利用者との関わり】

このグループでは「常に」と「関わる」という言葉の結びつきが強い．具体的な記述としては子どもや利用者と「丁寧に関わる」,「常に明るく前向きに関わる」等の回答が得られていることから，常に明るく前向きな態度で子どもや利用者と丁寧に関わる姿が評価されていることが読み取れる．

【職務への姿勢】

「返事と素早い行動で責任感を強くもって」職務に当たること,「行事の際は予復習を怠らず」「自らの取るべき行動について把握している」という回答が得られた．自らの行動に根拠をもたせるため，保育に見通しを持とうとする努力を評価されたと考えられる．

【新任としての態度】

「学ぶ」「生かす」「先輩」などの言葉から，自身の知識・技術や経験の不足を自覚し，先輩から学んだことを生かそうとする努力が評価されていることが読み取れる．

【勤務態度】

「利用」「積極」「前向き」「姿勢」などの言葉から，利用者との丁寧な関わりや積極的な関わり，前向きな姿勢が評価されていると推察される．

２）保育者としての課題点

【一般常識】

「経験」という言葉の出現回数が多く,「生活」「社会」「不足」「学生」「経験」などの言葉と結びついている．学生生活の中でマナーや一般常識を身につけておくことを現場で求められていると考えられる．このことは全国保育士養成協議会の報告[2]にも関連していると言える．

【今後への期待】

「経験」という言葉を【一般常識】のグループと共有している．【一般常識】では社会人として必要なマナーや一般常識が不足しているという課題であったが，【今後への期待】では「今後」「現場」という言葉があり，さらに経験を積み重ねることで視野を広げ，保育者として成長することが期待されている．

【コミュニケーション能力】

「人とのコミュニケーションや積極性」「コミュニケーション不足」などの記述が多く，特定の場面におけるコミュニケーション能力ではなく，保育全般において人とのコミュニケーション能力が不足していると考えられる．

【客観的理解力】

保育日誌や子どもの個人記録など文章を書くことや，情報の理解・伝達が苦手であることが読み取れる．子どもの姿を文章で説明することが課題であると考えられる．

【柔軟な対応】

「親，関係機関への対応にはある程度経験が必要」という回答や「経験を積み重ねることでより一層視野が広がり…現場対応がより柔軟なものになる」という回答が得られた．全国保育士養成協議会[3]において「状況に応じた柔軟な態度で保育を行うこと」は勤続年

数３，４年までに育つことが求められている．柔軟な対応をすることは採用１年目の保育者には難しく，回答者からもそこまで求められていない．よって現状の課題ではなく，長期的に獲得していく課題であると考えられる．

３）養成校に期待する点

【期待される人材育成】

養成校で学んだ知識をさらに深め，子どもを惹きつける方法を身に付けたり，自身の人間性を高めたりしてほしいということが読み取れた．また，文章の書き方や社会人としてのマナーを学ぶことも期待されている．養成校では知識を伝えるだけでなく，自分で学び続ける姿勢を身につけられるような指導が求められている．

【文章表現の向上】

「最近の新卒者の方々の文章表現力を向上する必要性を感じている」という回答が得られた．文章表現については，【客観的理解力】の中でも保育日誌や子どもの個人記録などの文章を書くことや，情報の理解・伝達が苦手であると推察されている．文章表現能力の向上が「課題」および「期待」として挙げられていることから，現場において切迫した課題であると捉えられていることが推察された．

【地域貢献】

「地域に貢献できる人材育成」や「将来中心的職員になれる人材の確保」という回答が得られた．地域で働くだけではなく，専門の資格・免許を持った人材として，地域の中心的役割を担う人材育成が養成校に求められている．

【学生への周知】

幼稚園への就職希望者が少ない中で，幼稚園の魅力を学生に伝えてほしいという期待が感じられた．特に幼稚園の認定こども園への移行が進み，幼稚園という名前であっても保育所と大きな差はなくなりつつあるということを学生に周知することが求められている．

今後の課題

1．養成校における教育の課題と展望

本研究の結果より，「幼児期の特性に合わせた教育内容・方法についての理解」に課題があることが浮き彫りとなった．保育者が幼児期の発達の理論を理解していることと，個々の子どもの姿を観察する力があることは相互関係にある．そのため，それぞれ独立したものとして捉えるのではなく，相互に関係するものとして捉えることができるように授業内容を充実させていく必要がある．

自由記述においては，「コミュニケーション能力」の低さや「文章表現」について2014年度卒業生と同様に課題点として挙げられた．加えて，2015年度卒業生の調査においては，「経験不足」が課題点となった．これらの課題を受け，2016年度はコミュニケーション能力や積極的な態度を養うためにアクティブ・ラーニングを導入し，近隣にある総合公園で子どもたちを対象とした催しを企画・実行したり，学内にある子育て支援施設を授業で活用し，これまで以上に保護者と学生が関わる機会を増やしたりした．そのため，2016年度卒業生を対象とした調査では，コミュニケーション能力の評価に改善がみられるのではないかと考えられる．さらに，2017年度は学内に模擬保育室を設置する．在学中から，より実践的な経験を積むため活用をしていく予定である．また，筆者らの論文において，文章表現能力を高める打開策として，授業内で文章を書く機会を増やす必要性を述べた[1]．それを受けて，2016年度は授業内容を要約する時間を設け，ボランティア活動を行った際には毎回レポート課題を課した．今後は2016年度の取り組みを継続するとともに，保育日誌などの客観性を意識した文章表現の機会も増やしていくことが必要である．

2014年度卒業生の調査結果を受けて，2016年度の入学生からは１年次より各教科で指導

案を作成する取り組みを行ってきた．さらに2017年度の入学生は科目の開講年度を変更するなどカリキュラムの修正も行った．今後も調査を続けていくことにより，２～３年後の卒業生アンケートでは現場からの評価が向上することが期待できる．

２．調査における課題

2014年度の調査と同様，「８．家庭との連携」と「９．専門機関との連携」の評価が低かった．現状を鑑みると，新任保育者に家庭や専門機関との連携は任されていないため評価は妥当であると考えられる．アンケートを実施するにあたっては回答者が回答しやすいよう，これらの項目に対するより詳しい説明を加える必要がある．また，「養成校に期待する点」の中に個人に対する期待や課題に関する記述が含まれていたため，「課題」と「期待」の違いを明確に説明した上で回答を依頼する必要があると考えられる．

本研究では，2014年度卒業生の調査よりも提出期限を早めに設定した結果，回収率が低かった．２月中旬になってから返送された園もあったため，アンケートの時期を検討する必要がある．また，同様に１年目の保育者について評価しづらいとの意見もあった．Ａ短期大学の卒業後評価アンケートは2014年度から始まり，５年を一区切りとして調査を実施している．そのため，質問項目や調査時期を含む，調査内容の見直しは2018年度の調査からとなる．よって，2018年度までは現状を踏襲していくことになるが，2018年度以降，これらの課題を改善していくこととなる．

謝　　辞

調査にご協力いただきました保育所や幼稚園，施設の代表者の方々，当該学科卒業生の皆様，研究に際してご意見を頂戴した皆様に心から感謝申し上げます．

注および文献

１）林晋子・山本由紀子・菱田博之・相澤里美・宮下幸子：保育者養成校卒業後１年目の保育者に対する幼稚園・保育所・施設の評価－カリキュラムマップからの検討－．飯田女子短期大学紀要，**33**，253-264，2016.

２）ショーン，D.（佐藤学・秋田喜代美訳）：専門家の知恵－反省的実践家は行為しながら考える，ゆみる出版，東京.

３）一般社団法人全国保育者養成協議会専門委員会：平成25年度専門委員会課題研究報告書「保育者の専門性についての調査」－養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組み－（第２報），一般社団法人全国保育士養成協議会，2014.

４）上田厚作・松本昌治：保育・教職実践演習に求められる教育内容と課題－新任保育者に求められる能力等に関する追跡調査結果からの考察－．越谷保育専門学校研究紀要，**4**，35-44，2016.

５）樋口耕一：社会調査のための計量テキスト分析，ナカニシヤ出版，京都，2014.

６）「利用者」とは障害者支援施設や児童養護施設など保育所以外の福祉施設を利用している方を指す.

７）厚生労働省編：保育所保育指針解説書，フレーベル館，東京，2008.

８）一般社団法人全国保育士養成協議会専門委員会：平成24年度専門委員会課題研究報告書「保育者の専門性についての調査」－養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちとプロセスと専門性向上のための取り組み－，一般社団法人全国保育士養成協議会，東京，2013.

資料１

Ａ短期大学　学生の卒業生評価アンケート（幼児教育学科）

本学の卒業生（　　）につきまして、以下の質問に対し、1.まったくできていない　2.あまりできていない　3.どちらともいえない　4.だいたいできている　5.かなりできている　の中で当てはまる番号に○をつけてお答えください。なお、社会福祉施設の方は『子ども』を『利用者』と置き換えてお答え下さい。

1	本学卒業生は、魅力的な社会人として貴園に貢献できていますか	1	2	3	4	5
2	コミュニケーション能力があり、保育者としてふさわしい倫理観、人間性を獲得できていますか	1	2	3	4	5
3	保育の本質を理解し、子どもにとってのぞましい保育を考えることができていますか	1	2	3	4	5
4	子どもの人権の尊重及び最善の利益を考慮して保育を展開できていますか	1	2	3	4	5
5	日々の保育を振り返り、保育者としての専門性の向上に努めることができていますか	1	2	3	4	5
6	子どもの発達や育ちの環境を正しく把握することができていますか	1	2	3	4	5
7	短大で学んだ知識や保育技術を活かすことができていますか	1	2	3	4	5
8	家庭との連携を行い、保育の相談援助ができていますか	1	2	3	4	5
9	必要に応じて専門機関と連携がはかることができていますか	1	2	3	4	5
10	保育の職務内容および責任について理解できていますか	1	2	3	4	5
11	社会福祉制度の知識をもとに子どもや家庭を支援できていますか	1	2	3	4	5
12	子どもの心とからだの発達について、理論をもとに保育を展開できていますか	1	2	3	4	5
13	現代の子育て環境を踏まえて保育者の役割を考えることができていますか	1	2	3	4	5
14	保育のねらいや子どもの実態を踏まえて指導計画を立てることができていますか	1	2	3	4	5
15	幼児期の特性に合わせた教育内容・方法について理解できていますか	1	2	3	4	5
16	子どもや親の気持ち・立場を理解した対応ができていますか	1	2	3	4	5
17	子どもの表現を十分引き出すような支援ができていますか（ピアノの伴奏など）	1	2	3	4	5
18	行事やイベントなどで、歌ったり伴奏したりなどの表現活動ができていますか	1	2	3	4	5
19	園または施設の方針や実情を理解し，保育者として柔軟に活動できていますか	1	2	3	4	5
20	保育を展開する、または利用者を支援する中で、実習での経験が活かされてると感じられますか	1	2	3	4	5

21　保育者として評価できる点を挙げてください

22　保育者としての課題点を挙げてください

23　本学に期待されることがあれば教えてください

このたびはお忙しい中、本学の教育活動にご協力いただき誠にありがとうございました。

対象卒業者氏名（　　）

ご記入者氏名　（　　）役職（　　）

資料２

同意書（回答者用）

Ａ短期大学　幼児教育学科
林　晋子殿

・本アンケートは、本学の教育活動の評価から、その課題を明らかにし、今後の本学の保育者養成に反映させるためのものです。アンケートでは、本学の卒業生の本学での学習成果についてお尋ねします。

・本アンケートは大学評価のために第三者機関へ参考資料として提示されることがあります。

・本アンケートの結果は、統計処理されたのち分析し、論文としてまとめられて公開される予定です。

・本アンケートに回答するかしないかは自由であり、回答しなかった場合でも、今後の貴園・貴施設のいかなる活動にも一切影響しません

・研究に必要な貴園・貴施設及びその他の個人情報は、十分な注意を払って管理し、研究に直接関係する者以外に提供したり、研究目的以外に使用したりすることはありません。

・本アンケートから得られたデータは、学術論文や学会発表などの学術目的だけに使用し、その場合も、個人を特定できる情報は全て取り除いた上で利用いたします。

年　　月　　日

私は、上記当該研究の目的、方法について、その趣旨を理解致しましたので、上記アンケートに参加協力することに同意いたします。

署名

同意書（卒業生用）

Ａ短期大学　幼児教育学科
林　晋子殿

・本アンケートは、本学の教育活動の評価から、その課題を明らかにし、今後の本学の保育者養成に反映させるためのものです。アンケート内容は、本学の卒業生(あなた)の本学での学習成果についてお尋ねするものです。

・本アンケートは大学評価のために第三者機関へ参考資料として提示されることがあります。

・本アンケートの結果は、統計処理されたのち分析し,論文としてまとめられて公開される予定です。

・研究に必要なあなたの個人情報は、十分な注意を払って管理し、研究に直接関係する者以外に提供したり、研究目的以外に使用したりすることはありません。

・本アンケートから得られたデータは、学術論文や学会発表などの学術目的だけに使用し、その場合も、個人を特定できる情報は全て取り除いた上で利用いたします。

年　　月　　日

私は、上記当該研究の目的、方法について、その趣旨を理解致しましたので、上記アンケートに参加協力することに同意いたします。

署名